

# 平成28年度 経済建設委員会行政視察報告書

平成29年1月20日（金）

経済建設委員 杉山 智騎

## 1. 視察日程

平成29年1月18日（水）～1月19日（木）

## 2. 視察先及び視察内容

### （1）茨城県石岡市

石岡駅の改修とBRTの利便性を向上させる周辺整備について

### （2）栃木県佐野市

アウトレットの活用と中心市街地活性化について

## 3. 視察内容

### ■石岡駅の改修とBRTの利便性を向上させる周辺整備について

1月18日（水） 13:00～

#### i) 茨城県石岡市

人口7.6万人、面積215km<sup>2</sup>

平成17年に石岡市・八郷町の1市1町で合併し現在に至る。

様々な産業を広く行っている。特に農業では豊富な果樹栽培（いちご、柿、梨、みかん、りんご、栗）が行われる。歴史と豊かな街並み特徴である石岡地区と豊かな自然が特徴である八郷地区の合併で現在の石岡市となっているが、現在の岡崎（元岡崎地区、元額田地区）と非常に似ている。石岡地区には国分尼寺、舟塚山古墳、常陸国総社宮という歴史的資源も残っている。毎年9月に「常陸国総社宮例大祭（石岡のおまつり）」が行われ、関東三大まつりのひとつとして、期間中には約40万人の見物客で賑わう。

#### ii) 石岡駅周辺整備事業：新しくなる石岡駅と駅前広場

JR石岡駅は西口、東口のある常磐線。西口は駅前広場が狭く、朝夕や雨天時など自動車交通が混乱し、東口は東口から東西自由通路（屋根なし）が遠く、バリアフリー化、耐震化の課題が山積していた状態。この早急な対応の要求に対して、西口駅前広場の整備、東西自由通路の架け替え、石岡駅の橋上化、東口の整備を推進してきた。事業



メニューとして①石岡駅西口駅前広場整備、②石岡駅東西自由通路整備、③BRT バスター

ミナル整備、④JR 石岡駅橋上駅舎化整備の4つに分けて、平成 23 年度から基本設計に取り掛かった。国土交通省所管の「社会資本整備総合交付金」の補助を受けているが、最初4割の補助だったが、財務省のチェックにより3割に減額となった。石岡駅の東口の BRT 専用駅前広場の土地（約 24,000 m<sup>2</sup>）は鹿島鉄道から購入し、線路の土地は市へ無償寄付された。橋上駅舎化もされ、東西自由通路もきれいに整備された。エレベーター2基、エスカレーター6基の整備でバリアフリー化を行なった。石岡駅の東口は BRT 専用駅前広場となり、全国初の公設民営方式（土地は行政、バス運行は民間）を導入した。この地方型 BRT を運行（石岡駅・四箇村駅）することにより定時制と速達性を実現した。



### iii) 所感

以前、石岡駅から銚田駅までの 27km を運行していた鹿島鉄道が平成 19 年に廃線となり翌月から代替バスが運行していた。しかし、一般道を走ることによる定時制の減少、本数の減少により利用者が激減。そこで導入されたのが地方型 BRT です。鹿島鉄道の廃線敷きをバス専用道路にし、公設民営方式にて運行されました。石岡市は BRT を含む、かしてつバスの利用促進を図るために、かしてつ沿線地域公共交通戦略会議、かしてつバスネットワーク会議を行なって、市民やバス路線沿線住民の声をしっかりと聴くことに努めました。運行が始まってからも、地元高校とバス弁当を開発したり、様々なイベントで PR 活動を行なっています。本市としても事業を行なう際には住民の意見、考えを吸い上げ、説明し、通知、宣伝する方法をしっかりと吟味、熟慮する必要があります。石岡市の住民が主体的に会議をしたり、PR 活動をしていることにより、BRT を含むバスの活性化が進んでいます。そのことにより、茨城空港へのアクセスの利便性が向上し海外からの来訪者も増え、市内の活性化へも一躍買っている。石岡駅を橋上駅舎化して東西自由通路を整備したことにより、石岡駅の東口にある市営駐車場の利用者が増え、市民のニーズにしっかりと答えていることがわかります。本市も官民一体となって事業を行なえる環境をもっと整える必要があると再確認いたしました。

また、石岡駅の観光案内所には石岡駅発信の情報で溢れていました。岡崎駅の観光案内所は他市の案内所を見習って、岡崎の広報部としての意識を高めていただきたい。岡崎のことを知りたいときは、岡崎駅の観光案内所へ行けば教えてもらえるという安心感や期待感を持てる場所を提供してもらいたいです。



## ■アウトレットの活用と中心市街地活性化について

1月19日（木） 9：30～

### i) 栃木県佐野市

人口：12万人、面積：356k㎡

平成17年に佐野市、田沼町、葛生町が合併して現在に至る。

「水と緑」唐沢山を代表として自然と満喫できる施設が充実。「万葉の地」万葉集東歌に登場するように歴史と伝統文化に恵まれている。「交流拠点都市」として佐野プレミアム・アウトレットをメインとし、観光資源（厄除け、佐野ラーメン、いもフライ）が充実している。東北自動車道、北関東自動車道が市内を走っており、3つのインターチェンジを有する。



### ii) 佐野プレミアム・アウトレットの活用について

アウトレット出店（H15年3月）による影響は大きく、市全体としても新都市地区（高萩町、越名町）ともに人口が増加傾向にある。（高萩町 3,150人：H15年度→4,328人：H28年度、越名町 815人：H15年度→904人：H28年度）アウトレット出店後佐野市への観光客人数も増加し、観光客宿泊数も増加している。人口も増加し、観光客数も増加したことにより、交通渋滞が発生する。特にGWや年末年始などの大型連休時は国道50号線の上下線、東北自動車道佐野藤岡IC周辺の上下線で大規模な渋滞（6km前後）が発生。

- ・交通受胎緩和に向けた取り組み①「佐野プレミアム・アウトレットの取り組み」  
駐車場増床を実施（2,157台：H15.3→4,300台：H20.7）  
GWなどの連休時、休日にオペレーションスタッフを増員（通常時の5～6倍）
- ・交通受胎緩和に向けた取り組み②「国の取り組み」  
国道50号線の右折レーンを延長。国道50号線の増車線化。
- ・交通受胎緩和に向けた取り組み③「市の取り組み」  
東北自動車佐野藤岡IC周辺の渋滞を緩和するため、国・県・NEXCO東日本に働きかけ、佐野スマートICを開設。

アウトレット関連の税収は固定資産税、都市計画税で1.74億円。法人税で9.6千万円。

佐野プレミアム・アウトレット内に佐野コミュニケーションセンターを設置し佐野市の観光案内、地場産業・特産品の紹介を行なっている。この場では販売は行なっておらず、誘導型。また、年に数回イベントを行ない、アウトレット来場者に特産品等のPRを行なっている。



### iii) 中心市街地の活性化について

佐野市の人口は 11 年間で 6,205 人減少し、中心市街地の人口は 11 年間で 1,326 人減少しており、人口推移は顕著に減少推移となっている。また、中心市街地の高齢化も深刻で、65 歳以上の人口が 33.85%となっている。このような状況から佐野市の中心市街地をメインに活性化をするため、佐野市中心市街地活性化基本計画が策定された。この基本計画は、まちなかワークショップ、専門部会、協議会を繰り返し、そこで出た胃炎や要望を行政とつめ、まちなか活性化のグランドデザインを作成し、そのグランドデザインを元に策定したものである。佐野市役所からほど近くに「まちなかサロン」、佐野駅の横には「子育て支援センター運営事業」「駅前皇龍プラザ運営事業」を設置。また佐野地区は空き店舗も増加（77 店舗：H20 年度→116 店舗：H27 年度）しており、非常に問題となっている。この空き店舗対策として、まちなか活性化支援事業として改装費補助、家賃補助、広告宣伝費補助を行っている。また、さのまちづくり株式会社を設立し行政ではできなかつたり、対応が遅くなつてしまつたりする支援、応援、申請等を迅速に行なうことを目指している。

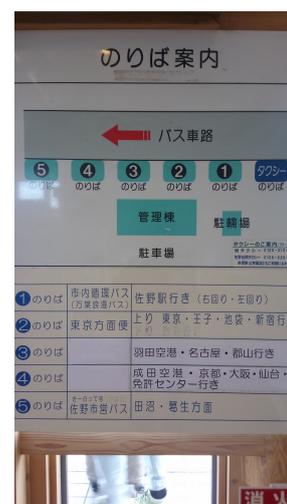
### ○佐野市の今後の課題

- 1) 佐野プレミアム・アウトレット来場者を市内へ呼び込み、市内回遊をしてもらう。
- 2) 佐野市への来訪者の 8 割はリピーターで、この再訪行動がとぎれないようにする。

### iv) 所感

新都市計画として UR 都市機構に佐野市から依頼をしたところから始まったとのこと。UR 都市機構がイオンと佐野プレミアム・アウトレット（アウトレットについてはチェルシー・ジャパン（現：三菱地所・サイモン株式会社から出店の申し出があった）を誘致し、佐野市の人口も増え、観光客数も順調に伸びていきました。佐野市の発展に大きな進展をもたらしたことは間違いありません。しかし、行政としては事業者に丸投げをした状態なので、アウトレットがオープンして 10 年以上経っても、後手後手の対応となつてしまつている。アウトレットを誘致する際に誰もが気になる、交通渋滞への検討、市内への影響の分析は行政が行うべきです。佐野市は分析、データも事業者へ任せている状態なので、解析も報告を受ける形となっています。市民の声を聴くのは行政であつて、事業者は利益を追求しています。その役割をきちんと認識して事業を行なっていく必要があります。本市としてもアウトレット誘致の検討段階から、交通渋滞、アウトレット来場者の市内回遊への導線はきちんと検討、実施をしてもらいたいです。議会としてもチェックし進言し続けます。

佐野プレミアム・アウトレットとしては通常の車来場用の駐車場、バス停、タクシー乗降場もありながら、バスターミナルもあり、他県からの来場者をしっかりと意識をしています。名古屋からの夜行バスもありました。都内から近いということもあり、東京方面は充実していました。市内巡回バスで佐野駅を經由しながら、市内回遊を促しています。このことから考えると本市も名古屋市からの来場者の意識ではなく、大阪、静岡、岐阜、富山、石川などを意識する必要がありますので、引き続き検討を行なっていきます。



また、今回視察させていただいた佐野市議会は議場をリニューアルしました。採決の際の賛成、反対もボタン形式にして、誰が賛成したのかも市民に公表しています。そして、タブレットを導入し、ノーペーパー化を目指していました。各市の先行事例を参考にしながら検討を行なっていきたいと思います。

